

習志野市介護予防・日常生活支援総合事業第1号訪問事業及び第1号通所事業の人員、設備及び運営並びに第1号訪問事業及び第1号通所事業に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める要綱

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この要綱は、介護保険法施行規則(平成11年厚生労働省令第36号。以下「施行規則」という。)第140条の63の6の規定に基づき、習志野市介護予防・日常生活支援総合事業実施要綱(平成29年告示第88号。以下「実施要綱」という。)第3条第1号ア(ア)に規定する介護予防訪問型サービス、同号ア(イ)に規定する生活援助訪問型サービス、同号イ(ア)に規定する介護予防通所型サービス、同号イ(イ)に規定する運動機能向上ミニデイ型サービス及び同号イ(ウ)に規定する介護予防ミニデイ型サービスの人員、設備及び運営に関する基準等について定めるものとする。

(定義)

第2条 この要綱において使用する用語は、介護保険法(平成9年法律第123号。以下「法」という。)、施行規則において使用する用語の例によるほか、次の各号に定めるところによる。

- (1) 第1号訪問事業者 第1号訪問事業を行う者として指定を受けた者をいう。
- (2) 第1号通所事業者 第1号通所事業を行う者として指定を受けた者をいう。
- (3) 第1号訪問事業所 第1号訪問事業者が指定に係る第1号訪問事業を行う事業所をいう。
- (4) 第1号通所事業所 第1号通所事業者が指定に係る第1号通所事業を行う事業所をいう。
- (5) 利用料 第1号事業支給費の支給の対象となる費用に係る対価をいう。
- (6) 法定代理受領サービス 法第115条の45の3第3項の規定により第1号事業支給費が利用者に代わり指定事業者に支払われる場合の当該第1号事業支給費に係る第1号事業をいう。
- (7) 常勤換算方法 当該事業所の従業員の勤務延時間数を当該事業

所において常勤の従業者が勤務すべき時間数で除することにより、当該事業所の従業者の員数に換算する方法をいう。

- (8) 習志野市認定ヘルパー等 市が実施する研修を修了した者又はそれに準ずる者

第2章 指定に係る申請者の資格

(指定に係る申請者の資格)

第3条 指定を受けようとする者は、下記に掲げる要件の全てを満たす者とする。

- (1) 法人であること。
- (2) 第62条第1項に規定する生活援助訪問型サービス事業者の指定にあつては、指定訪問介護事業者(指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準(平成11年厚生省令第37号。以下「指定居宅サービス等基準」という。))第5条第1項に規定する指定訪問介護事業者をいう。以下同じ。)又は第6条第1項に規定する介護予防訪問型サービス事業者の指定を受け、かつ、生活援助訪問型サービスの事業と指定訪問介護(指定居宅サービス等基準第3条に規定する指定訪問介護をいう。以下同じ。)又は介護予防訪問型サービスの事業とを同一の事業所において一体的に運営する者であること。
- (3) 第100条第1項に規定する運動機能向上ミニデイ型サービス事業者及び第118条第1項に規定する介護予防ミニデイ型サービス事業者の指定にあつては、指定通所介護事業者等(指定居宅サービス等基準第93条第1項に規定する指定通所介護事業者又は指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準(平成18年厚生労働省令第34号。以下「指定地域密着型サービス基準」という。))第20条第1項に規定する指定地域密着型通所介護事業者をいう。以下同じ。)の指定を受け、かつ、運動機能向上ミニデイ型サービス又は介護予防ミニデイ型サービスの事業と指定通所介護等(指定通所介護指定居宅サービス等基準第92条に規定する指定通所介護又は指定地域密着型サービス基準第19条に規定する指定地域密着型通所介護をいう。以下同じ。)の事業とを同一の事業所において一体的に運営する者であること。

第3章 事業の一般原則

(事業の一般原則)

第4条 第1号訪問事業者及び第1号通所事業者は、利用者の意思及び人格を尊重して、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努めなければならない。

2 第1号訪問事業者及び第1号通所事業者は、事業を運営するに当たっては、地域との結び付きを重視し、市、他の介護予防サービス事業者その他の保健医療サービス及び福祉サービスを提供する者との連携に努めなければならない。

3 第1号訪問事業者及び第1号通所事業者は、サービスを提供するに当たっては、法第118条の2第1項に規定する介護保険等関連情報その他必要な情報を活用し、適切かつ有効に行うよう努めなければならない。

第4章 介護予防訪問型サービス

第1節 基本方針

(基本方針)

第5条 介護予防訪問型サービスは、その利用者が可能な限りその居宅において、心身の状態の維持若しくは改善を図り、又は要介護状態となることを予防し、自立した日常生活を営むことができるよう、入浴、排せつ、食事の介護その他の生活全般にわたる支援を行うことにより、利用者の心身機能の維持回復を図り、もって利用者の生活機能の維持又は向上を目指すものでなければならない。

第2節 人員に関する基準

(訪問介護員等の員数)

第6条 介護予防訪問型サービスを行う者として指定を受けた者(以下「介護予防訪問型サービス事業者」という。)が当該指定に係る介護予防訪問型サービスを行う事業所(以下「介護予防訪問型サービス事業所」という。)ごとに置くべき訪問介護員等(介護予防訪問型サービスの提供に当たる介護福祉士又は旧法第8条の2第2項に規定する政令で定める者をいう。以下同じ)の員数は、常勤換算方法で、2.5以上とする。

2 介護予防訪問型サービス事業者は、その事業所ごとに、常勤の訪問介護員等のうち、利用者(当該介護予防訪問型サービス事業者が指定訪問介護事業者の指定を併せて受け、かつ、介護予防訪問型サービスの事業と、指定訪問介護の事業が同一の事業所において一体的に運営されている場合にあっては、当該事業所における介護予防訪問型サービス

及び指定訪問介護の利用者。以下この条において同じ。)の数が40又はその端数を増すごとに1人以上の者をサービス提供責任者としなければならない。この場合において、当該サービス提供責任者の員数については、利用者の数に応じて常勤換算方法によることができる。

- 3 前項の利用者の数は、前3月の平均値とする。ただし、新規に指定を受ける場合は、推定数による。
- 4 第2項のサービス提供責任者は、介護福祉士その他厚生労働大臣が定めるサービス提供責任者(平成24年厚生労働省告示第118号)に定める者であって、専ら介護予防訪問型サービスに従事するものをもって充てなければならない。ただし、利用者に対する介護予防訪問型サービスの提供に支障がない場合は、同一敷地内にある指定定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所(指定地域密着型サービス基準第3条の4に規定する指定定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所をいう。以下同じ。)又は指定夜間対応型訪問介護事業所(指定地域密着型サービス基準第6条に規定する指定夜間対応型訪問介護事業所をいう。以下同じ。)に従事することができる。
- 5 第2項の規定にかかわらず、常勤のサービス提供責任者を3人以上配置し、かつ、サービス提供責任者の業務に主として従事する者を1人以上配置している介護予防訪問型サービス事業所において、サービス提供責任者が行う業務が効率的に行われている場合にあっては、当該介護予防訪問型サービス事業所に置くべきサービス提供責任者の員数は、利用者の数が50又はその端数を増すごとに1人以上とすることができる。
- 6 介護予防訪問型サービス事業者が指定訪問介護事業者の指定を併せて受け、かつ、介護予防訪問型サービスの事業と指定訪問介護の事業が同一の事業所において一体的に運営されている場合については、指定居宅サービス等基準第5条第1項から第4項までに規定する人員に関する基準を満たすことをもって、前各項に規定する基準を満たしているものとみなすことができる。

(管理者)

- 第7条 介護予防訪問型サービス事業者は、介護予防訪問型サービス事業所ごとに専らその職務に従事する常勤の管理者を置かなければならない。ただし、介護予防訪問型サービス事業所の管理上支障がない場合は、当該介護予防訪問型サービス事業所の他の職務に従事し、又は同一敷地内にある他の事業所、施設等の職務に従事することができるものとす

る。

第3節 設備に関する基準

(設備及び備品等)

第8条 介護予防訪問型サービス事業所には、事業の運営を行うために必要な広さを有する専用の区画を設けるほか、介護予防訪問型サービスの提供に必要な設備及び備品等を備えなければならない。

2 介護予防訪問型サービス事業者が指定訪問介護事業者の指定を併せて受け、かつ、介護予防訪問型サービスの事業と指定訪問介護の事業が同一の事業所において一体的に運営されている場合については、指定居宅サービス等基準第7条第1項に規定する設備に関する基準を満たすことをもって、前項に規定する基準を満たしているものとみなすことができる。

第4節 運営に関する基準

(内容及び手続の説明及び同意)

第9条 介護予防訪問型サービス事業者は、介護予防訪問型サービスの提供の開始に際し、あらかじめ、利用申込者又はその家族に対し、第27条に規定する重要事項に関する規程の概要、訪問介護員等の勤務の体制その他の利用申込者のサービスの選択に資すると認められる重要事項を記した文書を交付して説明を行い、当該提供の開始について利用申込者の同意を得なければならない。

2 介護予防訪問型サービス事業者は、利用申込者又はその家族からの申出があった場合には、前項の規定による文書の交付に代えて、第5項で定めるところにより、当該利用申込者又はその家族の承諾を得て、当該文書に記すべき重要事項を電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法であって次に掲げるもの(以下この条において「電磁的方法」という。)により提供することができる。この場合において、当該介護予防訪問型サービス事業者は、当該文書を交付したものとみなす。

(1) 電子情報処理組織を使用する方法のうちア又はイに掲げるもの

ア 介護予防訪問型サービス事業者の使用に係る電子計算機と利用申込者又はその家族の使用に係る電子計算機とを接続する電気通信回線を通じて送信し、受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録する方法

イ 介護予防訪問型サービス事業者の使用に係る電子計算機に備え

られたファイルに記録された前項に規定する重要事項を電気通信回線を通じて利用申込者又はその家族の閲覧に供し、当該利用申込者又はその家族の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該重要事項を記録する方法（電磁的方法による提供を受ける旨の承諾又は受けない旨の申出をする場合にあっては、介護予防訪問型サービス事業者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルにその旨を記録する方法）

(2) 磁気ディスク、シー・ディー・ロムその他これらに準ずる方法により一定の事項を確実に記録しておくことができる物をもって調製するファイルに前項に規定する重要事項を記録したものを交付する方法

3 前項に掲げる方法は、利用申込者又はその家族がファイルへの記録を出力することによる文書を作成することができるものでなければならない。

4 第2項第1号の「電子情報処理組織」とは、介護予防訪問型サービス事業者の使用に係る電子計算機と、利用申込者又はその家族の使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織をいう。

5 介護予防訪問型サービス事業者は、第2項の規定により第1項に規定する重要事項を提供しようとするときは、あらかじめ、当該利用申込者又はその家族に対し、その用いる次に掲げる電磁的方法の種類及び内容を示し、文書又は電磁的方法による承諾を得なければならない。

(1) 第2項各号に規定する方法のうち介護予防訪問型サービス事業者が使用するもの

(2) ファイルへの記録の方式

6 前項の規定による承諾を得た介護予防訪問型サービス事業者は、当該利用申込者又はその家族から文書又は電磁的方法により電磁的方法による提供を受けない旨の申出があったときは、当該利用申込者又はその家族に対し、第1項に規定する重要事項の提供を電磁的方法によってしてはならない。ただし、当該利用申込者又はその家族が再び前項の規定による承諾をした場合は、この限りでない。

(提供拒否の禁止)

第10条 介護予防訪問型サービス事業者は、正当な理由なく介護予防訪問型サービスの提供を拒んではならない。

(サービス提供困難時の対応)

第11条 介護予防訪問型サービス事業者は、当該介護予防訪問型サービス事業所の通常の事業の実施地域等を勘案し、利用申込者に対し自ら

適切な介護予防訪問型サービスを提供することが困難であると認められた場合は、当該利用申込者に係る介護予防支援事業者（法第115条の45第1項第1号二に規定する第1号介護予防支援事業を行う者を含む。以下同じ。）への連絡、適当な他の介護予防訪問型サービス事業者等の紹介その他の必要な措置を速やかに講じなければならない。

（受給資格等の確認）

第12条 介護予防訪問型サービス事業者は、介護予防訪問型サービスの提供を求められた場合は、その者の提示する被保険者証によって、被保険者資格、要支援認定の有無及び要支援認定の有効期間並びに事業対象者としての判定の有無を確かめるものとする。

2 介護予防訪問型サービス事業者は、前項の被保険者証に、法第115条の3第2項の規定により認定審査会意見が記載されているときは、当該認定審査会意見に配慮して、介護予防訪問型サービスを提供するように努めなければならない。

（要支援認定の申請等に係る援助）

第13条 介護予防訪問型サービス事業者は、介護予防訪問型サービスの提供の開始に際し、利用申込者について、要支援認定の申請が既に行われているかどうか又は基本チェックリスト（実施要綱第11条第2項に規定する基本チェックリストをいう。以下同じ。）による回答が既に行われているかどうかを確認し、当該申請又は回答が行われていない場合は、当該利用申込者の意思を踏まえて速やかに当該申請又は回答が行われるよう必要な援助を行わなければならない。

2 介護予防訪問型サービス事業者は、必要と認めるときは、要支援認定の更新の申請が、遅くとも当該利用者が受けている要支援認定の有効期間が終了する30日前にはなされるよう、必要な援助を行わなければならない。

（心身の状況等の把握）

第14条 介護予防訪問型サービス事業者は、介護予防訪問型サービスの提供に当たっては、利用者に係る介護予防支援事業者が開催するサービス担当者会議（指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準（平成18年厚生労働省令第37号。以下「指定介護予防支援等基準」という。）第30条第9号に規定するサービス担当者会議をいう。以下同じ。）等を通じて、利用者の心身の状況、その置かれている環境、

他の保健医療サービス又は福祉サービスの利用状況等の把握に努めなければならない。

(介護予防支援事業者等との連携)

第15条 介護予防訪問型サービス事業者は、介護予防訪問型サービスを提供するに当たっては、介護予防支援事業者その他保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めなければならない。

2 介護予防訪問型サービス事業者は、介護予防訪問型サービスの提供の終了に際しては、利用者又はその家族に対して適切な指導を行うとともに、当該利用者に係る介護予防支援事業者に対する情報の提供及び保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めなければならない。

(第1号事業支給費の支給を受けるための援助)

第16条 介護予防訪問型サービス事業者は、介護予防訪問型サービスの提供の開始に際し、利用申込者が介護予防支援(法第115条の45第1項第1号ニに規定する援助を含む。以下同じ。)を受けることについてあらかじめ市に届け出ていないとき又は当該介護予防訪問型サービスが介護予防支援に係る介護予防サービス計画(施行規則第140条の62の5第3項に規定する居宅要支援被保険者等ごとに作成される計画を含む。以下同じ。)の対象となっていないときは、当該利用申込者又はその家族に対し、介護予防サービス計画の作成を介護予防支援事業者に依頼する旨を市に対して届け出ること等により、第1号事業支給費の支給を受けることができる旨を説明すること、介護予防支援事業者に関する情報を提供することその他の第1号事業支給費の支給を受けるために必要な援助を行わなければならない。

(介護予防サービス計画に沿ったサービスの提供)

第17条 介護予防訪問型サービス事業者は、介護予防サービス計画が作成されている場合は、当該計画に沿った介護予防訪問型サービスを提供しなければならない。

(介護予防サービス計画の変更の援助)

第18条 介護予防訪問型サービス事業者は、利用者が介護予防サービス計画の変更を希望する場合は、当該利用者に係る介護予防支援事業者への連絡その他の必要な援助を行わなければならない。

(身分を証する書類の携行)

第19条 介護予防訪問型サービス事業者は、訪問介護員等に身分を証す

る書類を携行させ、初回訪問時及び利用者又はその家族から求められたときは、これを提示すべき旨を指導しなければならない。

(サービスの提供の記録)

第20条 介護予防訪問型サービス事業者は、介護予防訪問型サービスを提供した際には、当該介護予防訪問型サービスの提供日及び内容、当該介護予防訪問型サービスについて法第115条の45の3第3項の規定により利用者に代わって支払を受ける第1号事業支給費の額その他必要な事項を、利用者の介護予防サービス計画を記載した書面又はこれに準ずる書面に記載しなければならない。

2 介護予防訪問型サービス事業者は、介護予防訪問型サービスを提供した際には、提供した具体的なサービスの内容等を記録するとともに、利用者からの申出があった場合には、文書の交付その他適切な方法により、その情報を利用者に対して提供しなければならない。

(利用料等の受領)

第21条 介護予防訪問型サービス事業者は、法定代理受領サービスに該当する介護予防訪問型サービスを提供した際には、その利用者から利用料の一部として、当該介護予防訪問型サービスに係る第1号事業に要する費用の額から当該介護予防訪問型サービス事業者を支払われる第1号事業支給費の額を控除して得た額の支払を受けるものとする。

2 介護予防訪問型サービス事業者は、法定代理受領サービスに該当しない介護予防訪問型サービスを提供した際にその利用者から支払を受ける利用料の額と、介護予防訪問型サービスに係る第1号事業に要する費用の額との間に、不合理な差額が生じないようにしなければならない。

3 介護予防訪問型サービス事業者は、前各項の支払を受ける額のほか、利用者の選定により通常の事業の実施地域以外の地域の居宅において介護予防訪問型サービスを行う場合は、それに要した交通費の額の支払を利用者から受けることができる。

4 介護予防訪問型サービス事業者は、前項の費用の額に係るサービスの提供に当たっては、あらかじめ、利用者又はその家族に対し、当該サービス内容及び費用について説明を行い、利用者の同意を得なければならない。

(第1号事業支給費の請求のための証明書の交付)

第22条 介護予防訪問型サービス事業者は、法定代理受領サービスに該当しない介護予防訪問型サービスに係る利用料の支払を受けた場合は、

提供した介護予防訪問型サービスの内容、費用の額その他必要と認められる事項を記載したサービス提供証明書を利用者に対して交付しなければならない。

(同居家族に対するサービス提供の禁止)

第23条 介護予防訪問型サービス事業者は、訪問介護員等に、その同居の家族である利用者に対する介護予防訪問型サービスの提供をさせてはならない。

(利用者に関する市への通知)

第24条 介護予防訪問型サービス事業者は、介護予防訪問型サービスを受けている利用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、遅滞なく、意見を付してその旨を市に通知しなければならない。

- (1) 正当な理由なしに介護予防訪問型サービスの利用に関する指示に従わないことにより、要支援状態の程度を増進させたと認められるとき又は要介護状態になったと認められるとき。
- (2) 偽りその他不正な行為によって第1号事業支給費の支給を受け、又は受けようとしたとき。

(緊急時等の対応)

第25条 訪問介護員等は、現に介護予防訪問型サービスの提供を行っているときに利用者に病状の急変が生じた場合その他必要な場合は、速やかに主治の医師への連絡を行う等の必要な措置を講じなければならない。

(管理者及びサービス提供責任者の責務)

第26条 介護予防訪問型サービス事業所の管理者は、当該介護予防訪問型サービス事業所の従業者及び業務の管理を一元的に行わなければならない。

2 介護予防訪問型サービス事業所の管理者は、当該介護予防訪問型サービス事業所の従業者にこの章の規定を遵守させるため必要な指揮命令を行うものとする。

3 サービス提供責任者(第6条第2項に規定するサービス提供責任者をいう。以下この章において同じ。)は、次の各号に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 介護予防訪問型サービスの利用の申込みに係る調整をすること。
- (2) 利用者の状態の変化やサービスに関する意向を定期的に把握すること。

- (2)の2 地域包括支援センター等に対し、介護予防訪問型サービスの提供に当たり把握した利用者の服薬状況、口腔機能その他の利用者の心身の状態及び生活の状況に係る必要な情報の提供を行うこと。
- (3) サービス担当者会議への出席等介護予防支援事業者等との連携に関すること。
- (4) 訪問介護員等(サービス提供責任者を除く。以下この条において同じ。)に対し、具体的な援助目標及び援助内容を指示するとともに、利用者の状況についての情報を伝達すること。
- (5) 訪問介護員等の業務の実施状況を把握すること。
- (6) 訪問介護員等の能力や希望を踏まえた業務管理を実施すること。
- (7) 訪問介護員等に対する研修、技術指導等を実施すること。
- (8) その他サービス内容の管理について必要な業務を実施すること。

(運営規程)

第27条 介護予防訪問型サービス事業者は、介護予防訪問型サービス事業所ごとに、次の各号に掲げる事業の運営についての重要事項に関する規程を定めておかなければならない。

- (1) 事業の目的及び運営の方針
- (2) 従業者の職種、員数及び職務の内容
- (3) 営業日及び営業時間
- (4) 介護予防訪問型サービス内容及び利用料その他の費用の額
- (5) 通常の事業の実施地域
- (6) 緊急時等における対応方法
- (7) 虐待の防止のための措置に関する事項
- (8) その他運営に関する重要事項

(介護等の総合的な提供)

第28条 介護予防訪問型サービス事業者は、介護予防訪問型サービスの事業の運営に当たっては、入浴、排せつ、食事等の介護又は調理、洗濯、掃除等の家事(以下この条において「介護等」という。)を常に総合的に提供するものとし、介護等のうち特定の支援に偏することがあってはならない。

(勤務体制の確保等)

第29条 介護予防訪問型サービス事業者は、利用者に対し適切な介護予防訪問型サービスを提供できるよう、介護予防訪問型サービス事業所ごとに、訪問介護員等の勤務の体制を定めておかなければならない。

- 2 介護予防訪問型サービス事業者は、介護予防訪問型サービス事業所ごとに、当該介護予防訪問型サービス事業所の訪問介護員等によって介護予防訪問型サービスを提供しなければならない。
- 3 介護予防訪問型サービス事業者は、訪問介護員等の資質の向上のために、その研修の機会を確保しなければならない。
- 4 介護予防訪問型サービス事業者は、適切なサービスの提供を確保する観点から、職場において行われる性的な言動又は優越的な関係を背景とした言動であって業務上必要かつ相当な範囲を超えたものにより従業者の就業環境が害されることを防止するための方針の明確化等の必要な措置を講じなければならない。

(業務継続計画の策定等)

第29条の2 介護予防訪問型サービス事業者は、感染症や非常災害の発生時において、利用者に対するサービスの提供を継続的に実施するための、及び非常時の体制で早期の業務再開を図るための計画(以下この条において「業務継続計画」という。)を策定し、当該業務継続計画に従い必要な措置を講じなければならない。

- 2 介護予防訪問型サービス事業者は、従業者に対し、業務継続計画について周知するとともに、必要な研修及び訓練を定期的実施しなければならない。
- 3 介護予防訪問型サービス事業者は、定期的に業務継続計画の見直しを行い、必要に応じて業務継続計画の変更を行うものとする。

(衛生管理等)

第30条 介護予防訪問型サービス事業者は、訪問介護員等の清潔の保持及び健康状態について、必要な管理を行わなければならない。

- 2 介護予防訪問型サービス事業者は、介護予防訪問型サービス事業所の設備及び備品等について、衛生的な管理に努めなければならない。
- 3 介護予防訪問型サービス事業者は、介護予防訪問型サービス事業所において感染症が発生し、又はまん延しないように、次の各号に掲げる措置を講じなければならない。

(1) 介護予防訪問型サービス事業所における感染症の予防及びまん延の防止のための対策を検討する委員会(テレビ電話装置その他の情報通信機器(以下「テレビ電話装置等」という。)を活用して行うことができるものとする。)をおおむね6月に1回以上開催するとともに、その結果について、従業者に周知徹底を図ること。

(2)事業所における感染症の予防及びまん延の防止のための指針を整備すること。

(3)事業所において、従業者に対し、感染症の予防及びまん延の防止のための研修及び訓練を定期的実施すること。

(掲示)

第31条 介護予防訪問型サービス事業者は、介護予防訪問型サービス事業所の見やすい場所に、第27条に規定する重要事項に関する規程の概要、訪問介護員等の勤務の体制その他の利用申込者のサービスの選択に資すると認められる重要事項を掲示しなければならない。

2 介護予防訪問型サービス事業者は、前項に規定する事項を記載した書面を事業所に備え付け、かつ、これをいつでも関係者に自由に閲覧させることを可能とすることにより、同行の規定による事業所の掲示に代えることができる。

(秘密保持等)

第32条 介護予防訪問型サービス事業所の従業者は、正当な理由がなく、その業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を漏らしてはならない。

2 介護予防訪問型サービス事業者は、当該介護予防訪問型サービス事業所の従業者であった者が、正当な理由がなく、その業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を漏らすことがないよう、必要な措置を講じなければならない。

3 介護予防訪問型サービス事業者は、サービス担当者会議等において、利用者の個人情報を用いる場合は利用者の同意を、利用者の家族の個人情報を用いる場合は当該家族の同意を、あらかじめ文書により得ておかななければならない。

(広告)

第33条 介護予防訪問型サービス事業者は、介護予防訪問型サービス事業所について広告をする場合においては、その内容が虚偽又は誇大なものであってはならない。

(不当な働きかけの禁止)

第33条の2 介護予防訪問型サービス事業者は、介護予防サービス計画の作成又は変更に関し、地域包括支援センターの保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員等又は居宅要支援被保険者等に対して、利用者に必要のないサービスを当該介護予防サービス計画に位置付けるよう求めることその他の不当な働きかけを行ってはならない。

(介護予防支援事業者に対する利益供与の禁止)

第34条 介護予防訪問型サービス事業者は、介護予防支援事業者又はその従業者に対し、利用者に対して特定の事業者によるサービスを利用させることの対償として、金品その他の財産上の利益を供与してはならない。

(苦情処理)

第35条 介護予防訪問型サービス事業者は、提供した介護予防訪問型サービスに係る利用者及びその家族からの苦情に迅速かつ適切に対応するために、苦情を受け付けるための窓口を設置する等の必要な措置を講じなければならない。

2 介護予防訪問型サービス事業者は、前項の苦情を受け付けた場合には、当該苦情の内容等を記録しなければならない。

3 介護予防訪問型サービス事業者は、提供した介護予防訪問型サービスに関し、市が行う文書その他の物件の提出若しくは提示の求め又は当該市の職員からの質問若しくは照会に応じ、及び利用者からの苦情に関して市が行う調査に協力するとともに、市から指導又は助言を受けた場合においては、当該指導又は助言に従って必要な改善を行わなければならない。

4 介護予防訪問型サービス事業者は、市からの求めがあった場合には、前項の改善の内容を市に報告しなければならない。

(地域との連携等)

第36条 介護予防訪問型サービス事業者は、その事業の運営に当たっては、提供した介護予防訪問型サービスに関する利用者からの苦情に関して市が派遣する者が相談及び援助を行う事業その他の市が実施する事業に協力するよう努めなければならない。

2 介護予防訪問型サービス事業者は、事業所の所在する建物と同一の建物に居住する利用者に対してサービス提供をする場合には、当該建物に居住する利用者以外の者に対してもサービス提供を行うよう努めなければならない。

(事故発生時の対応)

第37条 介護予防訪問型サービス事業者は、利用者に対する介護予防訪問型サービスの提供により事故が発生した場合は、市、当該利用者の家族、当該利用者に係る介護予防支援事業者に連絡を行うとともに、必要な措置を講じなければならない。

2 介護予防訪問型サービス事業者は、前項の事故の状況及び事故に際して採った処置について記録しなければならない。

3 介護予防訪問型サービス事業者は、利用者に対する介護予防訪問型サービスの提供により賠償すべき事故が発生した場合は、損害賠償を速やかに行わなければならない。

(虐待の防止)

第37条の2 介護予防訪問型サービス事業者は、虐待の発生又はその再発を防止するため、次の各号に定める措置を講じなければならない。

(1) 介護予防訪問型サービス事業所における虐待の防止のための対策を検討する委員会(テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。)を定期的で開催するとともに、その結果について、従業者に周知徹底を図ること。

(2) 介護予防訪問型サービス事業所における虐待の防止のための指針を整備すること。

(3) 介護予防訪問型サービス事業所において、従業者に対し、虐待の防止のための研修を定期的を実施すること。

(4) 前3号に掲げる措置を適切に実施するための担当者を置くこと。

(会計の区分)

第38条 介護予防訪問型サービス事業者は、介護予防訪問型サービス事業所ごとに経理を区分するとともに、介護予防訪問型サービスの事業の会計とその他の事業の会計とを区分しなければならない。

(記録の整備)

第39条 介護予防訪問型サービス事業者は、従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備しておかななければならない。

2 介護予防訪問型サービス事業者は、利用者に対する介護予防訪問型サービスの提供に関する次の各号に掲げる記録を整備し、その完結の日から2年間(第1号、第2号、第6号及び第7号に掲げる記録にあっては、5年間)保存しなければならない。

(1) 第41条第2号に規定する介護予防訪問型サービス計画

(2) 第20条第2項に規定する提供した具体的なサービスの内容等の記録

(3) 第24条に規定する市への通知に係る記録

(4) 第35条第2項に規定する苦情の内容等の記録

(5) 第37条第2項に規定する事故の状況及び事故に際して採った処置

についての記録

(6) 前項に規定する従業者に関する記録のうち、従業者の勤務体制についての記録

(7) 前項に規定する会計に関する記録のうち、第1号事業支給費を請求するために、審査支払機関に提出したもの

第5節 介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準

(介護予防訪問型サービスの基本取扱方針)

第40条 介護予防訪問型サービスは、利用者の介護予防に資するよう、その目標を設定し、計画的に行われなければならない。

2 介護予防訪問型サービス事業者は、自らその提供する介護予防訪問型サービスの質の評価を行い、常にその改善を図らなければならない。

3 介護予防訪問型サービス事業者は、介護予防訪問型サービスの提供に当たり、利用者ができる限り要介護状態とならないで自立した日常生活を営むことができるよう支援することを目的とするものであることを常に意識してサービスの提供に当たらなければならない。

4 介護予防訪問型サービス事業者は、利用者がその有する能力を最大限活用することができるような方法によるサービスの提供に努めなければならない。

5 介護予防訪問型サービス事業者は、介護予防訪問型サービスの提供に当たり、利用者とのコミュニケーションを十分に図ることその他の様々な方法により、利用者が主体的に事業に参加するよう適切な働きかけに努めなければならない。

(介護予防訪問型サービスの具体的取扱方針)

第41条 訪問介護員等の行う介護予防訪問型サービスの方針は、第5条に規定する基本方針及び前条に規定する基本取扱方針に基づき、次に掲げるところによる。

(1) 介護予防訪問型サービスの提供に当たっては、主治の医師又は歯科医師からの情報伝達やサービス担当者会議を通じる等の適切な方法により、利用者の心身の状況、その置かれている環境等利用者の日常生活全般の状況の的確な把握を行うこと。

(2) サービス提供責任者は、前号に規定する利用者の日常生活全般の状況及び希望を踏まえて、介護予防訪問型サービスの目標、当該目標を達成するための具体的なサービスの内容、サービスの提供を行う期間等を記載した計画(以下「介護予防訪問型サービス計画」とい

う。)を作成すること。

- (3) 介護予防訪問型サービス計画は、既に介護予防サービス計画が作成されている場合は、当該計画の内容に沿って作成しなければならないこと。
- (4) サービス提供責任者は、介護予防訪問型サービス計画の作成に当たっては、その内容について利用者又はその家族に対して説明し、利用者の同意を得なければならないこと。
- (5) サービス提供責任者は、介護予防訪問型サービス計画を作成した際には、当該介護予防訪問型サービス計画を利用者に交付しなければならないこと。
- (6) 介護予防訪問型サービスの提供に当たっては、介護予防訪問型サービス計画に基づき、利用者が日常生活を営むのに必要な支援を行うこと。
- (7) 介護予防訪問型サービスの提供に当たっては、懇切丁寧に行うことを旨とし、利用者又はその家族に対し、サービスの提供方法等について、理解しやすいように説明を行うこと。
- (8) 介護予防訪問型サービスの提供に当たっては、介護技術の進歩に対応し、適切な介護技術をもってサービスの提供を行うこと。
- (9) サービス提供責任者は、介護予防訪問型サービス計画に基づくサービスの提供の開始時から、少なくとも1月に1回は、当該介護予防訪問型サービス計画に係る利用者の状態、当該利用者に対するサービスの提供状況等について、当該サービスの提供に係る介護予防サービス計画を作成した介護予防支援事業者に報告するとともに、当該介護予防訪問型サービス計画に記載したサービスの提供を行う期間が終了するまでに、少なくとも1回は、当該介護予防訪問型サービス計画の実施状況の把握(以下この条において「モニタリング」という。)を行うこと。
- (10) サービス提供責任者は、モニタリングの結果を記録し、当該記録を当該サービスの提供に係る介護予防サービス計画を作成した介護予防支援事業者に報告しなければならないこと。
- (11) サービス提供責任者は、モニタリングの結果を踏まえ、必要に応じて介護予防訪問型サービス計画の変更を行うこと。この場合においては、前各号の規定を準用する。

(介護予防訪問型サービスの提供に当たっての留意点)

第42条 介護予防訪問型サービスの提供に当たっては、介護予防の効果を最大限高める観点から、次に掲げる事項に留意しながら行わなければならない。

- (1) 介護予防訪問型サービス事業者は、サービスの提供に当たり、介護予防支援におけるアセスメント(指定介護予防支援等基準第30条第7号に規定するアセスメントをいう。以下同じ、)において把握された課題、介護予防訪問型サービスの提供による当該課題に係る改善状況等を踏まえつつ、効率的かつ柔軟なサービス提供に努めること。
- (2) 介護予防訪問型サービス事業者は、自立支援の観点から、利用者が、可能な限り、自ら家事等を行うことができるよう配慮するとともに、利用者の家族、地域の住民による自主的な取組等による支援、他の福祉サービスの利用の可能性についても考慮しなければならないこと。

第5章 介護予防通所型サービス

第1節 基本方針

(基本方針)

第43条 介護予防通所型サービスは、その利用者が可能な限りその居宅において、自立した日常生活を営むことができるよう、必要な日常生活上の支援及び機能訓練を行うことにより、利用者の心身機能の維持回復を図り、もって利用者の生活機能の維持又は向上を目指すものでなければならない。

第2節 人員に関する基準

(従業者の員数)

第44条 介護予防通所型サービスを行う者として指定を受けた者(以下「介護予防通所型サービス事業者」という。)が当該指定に係る介護予防通所型サービスを行う事業所(以下「介護予防通所型サービス事業所」という。)ごとに置くべき従業者(以下この章において「介護予防通所型サービス従業者」という。)の員数は、次のとおりとする。

- (1) 生活相談員 介護予防通所型サービスの提供日ごとに、介護予防通所型サービスを提供している時間帯に生活相談員(専ら当該介護予防通所型サービスの提供に当たる者に限る。)が勤務している時間数の合計を、当該介護予防通所型サービスを提供している時間帯の時間数で除して得た数が1以上確保されるために必要と認められる数
- (2) 看護師又は准看護師(以下この章において「看護職員」という。) 介

護予防通所型サービスの単位ごとに、専ら当該介護予防通所型サービスの提供に当たる看護職員が1以上確保されるために必要と認められる数

- (3) 介護職員 介護予防通所型サービスの単位ごとに、当該介護予防通所型サービスを提供している時間帯に介護職員（専ら当該介護予防通所型サービスの提供に当たる者に限る。）が勤務している時間数の合計数を、当該介護予防通所型サービスを提供している時間数（次項において「提供単位時間数」という。）で除して得た数が利用者（当該介護予防通所型サービス事業者が指定通所介護事業者等の指定を併せて受け、かつ、介護予防通所型サービスの事業と、指定通所介護等の事業が同一の事業所において一体的に運営されている場合にあつては、当該事業所における介護予防通所型サービス及び指定通所介護等の利用者。以下この条において同じ。）の数が15人までの場合にあつては1以上、利用者の数が15人を超える場合にあつては15人を超える部分の数を5で除して得た数に1を加えた数以上確保されるために必要と認められる数

- (4) 機能訓練指導員 1以上

- 2 当該介護予防通所型サービス事業所の利用定員（当該介護予防通所型サービス事業所において同時に介護予防通所型サービスの提供を受けることができる利用者の数の上限をいう。以下同じ。）が10人以下である場合にあつては、前項の規定にかかわらず、看護職員及び介護職員の員数を、介護予防通所型サービスの単位ごとに、当該介護予防通所型サービスを提供している時間帯に看護職員又は介護職員（いずれも専ら当該介護予防通所型サービスの提供に当たる者に限る。）が勤務している時間数の合計数を提供単位時間数で除して得た数が1以上確保されるために必要と認められる数とすることができる。
- 3 介護予防通所型サービス事業者は、介護予防通所型サービスの単位ごとに、第1項第3号の介護職員（前項の適用を受ける場合にあつては、同項の看護職員又は介護職員。次項及び第7項において同じ。）を、常時1人以上当該介護予防通所型サービスに従事させなければならない。
- 4 第1項及び第2項の規定にかかわらず、介護職員は、利用者の処遇に支障がない場合は、他の介護予防通所型サービスの単位の介護職員として従事することができる。
- 5 前各項の介護予防通所型サービスの単位は、介護予防通所型サービス

であって、その提供が同時に1又は複数の利用者に対して一体的に行われるものをいう。

- 6 第1項第4号の機能訓練指導員は、日常生活を営むのに必要な機能の減退を防止するための訓練を行う能力を有する者とし、当該指定介護予防通所型サービス事業所の他の職務に従事することができる。
- 7 第1項の生活相談員又は介護職員のうち、1人以上は、常勤でなければならない。
- 8 介護予防通所型サービス事業者が指定通所介護事業者等の指定を併せて受け、かつ、介護予防通所型サービスの事業と指定通所介護等の事業が同一の事業所において一体的に運営されている場合については、指定居宅サービス等基準第93条第1項から第7項まで又は指定地域密着型サービス基準第20条第1項から第8項までに規定する人員に関する基準を満たすことをもって、前各項に規定する基準を満たしているものとみなすことができる。

(管理者)

第45条 介護予防通所型サービス事業者は、介護予防通所型サービス事業所ごとに専らその職務に従事する常勤の管理者を置かなければならない。ただし、介護予防通所型サービス事業所の管理上支障がない場合は、当該介護予防通所型サービス事業所の他の職務に従事し、又は同一敷地内にある他の事業所、施設等の職務に従事することができる。

第3節 設備に関する基準

(設備及び備品等)

第46条 介護予防通所型サービス事業所は、食堂、機能訓練室、静養室、相談室及び事務室を有するほか、消火設備その他の非常災害に際して必要な設備並びに介護予防通所型サービスの提供に必要なその他の設備及び備品等を備えなければならない。

2 前項に掲げる設備の基準は、次のとおりとする。

- (1) 食堂及び機能訓練室 それぞれ必要な広さを有するものとし、その合計した面積は、3平方メートルに利用定員を乗じて得た面積以上とすること。ただし、食事の提供の際にはその提供に支障がない広さを確保でき、かつ、機能訓練を行う際にはその実施に支障がない広さを確保できる場合にあつては、同一の場所とすることができる。
- (2) 相談室 遮へい物の設置等により相談の内容が漏えいしないよう配慮されていること。

- 3 第1項に掲げる設備は、専ら当該介護予防通所型サービスの事業の用に供するものでなければならない。ただし、利用者に対する介護予防通所型サービスの提供に支障がない場合は、この限りでない。
- 4 前項ただし書の場合（介護予防通所型サービス事業者が第1項に掲げる設備を利用し、夜間及び深夜に介護予防通所型サービス以外のサービスを提供する場合に限る。）には、当該サービスの内容を当該サービスの提供の開始前に当該介護予防通所型サービスの事業者に係る指定を行った市長に届け出るものとする。
- 5 介護予防通所型サービス事業者が指定通所介護事業者等の指定を併せて受け、かつ、介護予防通所型サービスの事業と指定通所介護等の事業が同一の事業所において一体的に運営されている場合については、指定居宅サービス等基準第95条第1項から第3項まで又は指定地域密着型サービス基準第22条第1項から第3項までに規定する設備に関する基準を満たすことをもって、前各項に規定する基準を満たしているものとみなすことができる。

第4節 運営に関する基準

（利用料の受領）

- 第47条 介護予防通所型サービス事業者は、法定代理受領サービスに該当する介護予防通所型サービスを提供した際には、その利用者から利用料の一部として、当該介護予防通所型サービスに係る第1号事業に要する費用額から当該介護予防通所型サービス事業者に支払われる第1号事業支給費の額を控除して得た額の支払を受けるものとする。
- 2 介護予防通所型サービス事業者は、法定代理受領サービスに該当しない介護予防通所型サービスを提供した際にその利用者から支払を受ける利用料の額と、介護予防通所型サービスに係る第1号事業に要する費用の額との間に、不合理な差額が生じないようにしなければならない。
 - 3 介護予防通所型サービス事業者は、前各項の支払を受ける額のほか、次に掲げる費用の額の支払を利用者から受けることができる。
 - (1) 利用者の選定により通常の事業の実施地域以外の地域に居住する利用者に対して行う送迎に要する費用
 - (2) 食事の提供に要する費用
 - (3) おむつ代
 - (4) 前各号に掲げるもののほか、介護予防通所型サービスの提供において提供される便宜のうち、日常生活においても通常必要となるものに

係る費用であって、その利用者に負担させることが適当と認められる費用

- 4 前項第2号に掲げる費用については、居住、滞在及び宿泊並びに食事の提供に係る利用料等に関する指針（平成17年厚生労働省告示第419号）に定めるところによる。
- 5 介護予防通所型サービス事業者は、第3項の費用の額に係るサービスの提供に当たっては、あらかじめ、利用者又はその家族に対し、当該サービスの内容及び費用について説明を行い、利用者の同意を得なければならない。

（管理者の責務）

第48条 介護予防通所型サービス事業所の管理者は、介護予防通所型サービス事業所の従業者の管理及び介護予防通所型サービスの利用の申込みに係る調整、業務の実施状況の把握その他の管理を一元的に行うものとする。

- 2 介護予防通所型サービス事業所の管理者は、当該介護予防通所型サービス事業所の従業者にこの章の規定を遵守させるため必要な指揮命令を行うものとする。

（運営規程）

第49条 介護予防通所型サービス事業者は、介護予防通所型サービス事業所ごとに、次に掲げる事業の運営についての重要事項に関する規程を定めておかなければならない。

- (1) 事業の目的及び運営の方針
- (2) 従業者の職種、員数及び職務の内容
- (3) 営業日及び営業時間
- (4) 介護予防通所型サービスの利用定員
- (5) 介護予防通所型サービスの内容及び利用料その他の費用の額
- (6) 通常の事業の実施地域
- (7) サービス利用に当たっての留意事項
- (8) 緊急時等における対応方法
- (9) 非常災害対策
- (10) 虐待の防止のための措置に関する事項
- (11) その他運営に関する重要事項

（勤務体制の確保等）

第50条 介護予防通所型サービス事業者は、利用者に対し適切な介護予

防通所型サービスを提供できるよう、介護予防通所型サービス事業所ごとに従業者の勤務の体制を定めておかなければならない。

- 2 介護予防通所型サービス事業者は、介護予防通所型サービス事業所ごとに、当該介護予防通所型サービス事業所の従業者によって介護予防通所型サービスを提供しなければならない。ただし、利用者の処遇に直接影響を及ぼさない業務については、この限りでない。
- 3 介護予防通所型サービス事業者は、介護予防通所型サービス従業者の資質の向上のために、その研修の機会を確保しなければならない。その際、当該介護予防通所型サービス事業者は、全ての従業者（看護師、准看護師、介護福祉士、介護支援専門員、介護保険法第8条第2項に規定する政令で定めるもの等の資格を有する者その他これに類する者を除く。）に対し、認知症介護に係る基礎的な研修を受講させるために必要な措置を講じなければならない。
- 4 介護予防通所型サービス事業者は、適切なサービスの提供を確保する観点から、職場において行われる性的な言動又は優越的な関係を背景とした言動であって業務上必要かつ相当な範囲を超えたものにより従業者の就業環境が害されることを防止するための方針の明確化等の必要な措置を講じなければならない。

（定員の遵守）

- 第51条 介護予防通所型サービス事業者は、利用定員を超えて介護予防通所型サービスの提供を行ってはならない。ただし、災害その他のやむを得ない事情がある場合は、この限りでない。

（非常災害対策）

- 第52条 介護予防通所型サービス事業者は、非常災害に関する具体的計画を立て、非常災害時の関係機関への通報及び連携の体制を整備し、それらを定期的に従業者に周知するとともに、定期的に避難、救出その他の必要な訓練を行わなければならない。

- 2 介護予防通所型サービス事業者は、前項に規定する訓練の実施に当たって、地域住民の参加が得られるよう連携に努めなければならない。

（衛生管理等）

- 第53条 介護予防通所型サービス事業者は、利用者の使用する施設、食器その他の設備又は飲用に供する水について、衛生的な管理に努め、又は衛生上必要な措置を講じなければならない。

- 2 介護予防通所型サービス事業者は、当該介護予防通所型サービス事

業所において感染症が発生し、又はまん延しないように次の各号に掲げる措置を講ずるよう努めなければならない。

(1) 介護予防通所型サービス事業所における感染症の予防及びまん延の防止のための対策を検討する委員会(テレビ電話装置その他の情報通信機器(以下「テレビ電話装置等」という。))を活用して行うことができるものとする。)をおおむね6月に1回以上開催するとともに、その結果について、従業者に周知徹底を図ること。

(2) 事業所における感染症の予防及びまん延の防止のための指針を整備すること。

(3) 事業所において、従業者に対し、感染症の予防及びまん延の防止のための研修及び訓練を定期的実施すること。

(地域との連携等)

第53条の2 介護予防通所型サービス事業者は、その事業の運営に当たっては、地域住民又はその自発的な活動との連携及び協力を行う等の地域との交流に努めなければならない。

(事故発生時の対応)

第54条 介護予防通所型サービス事業者は、利用者に対する介護予防通所型サービスの提供により事故が発生した場合は、市、当該利用者の家族、当該利用者に係る介護予防支援事業者等に連絡を行うとともに、必要な措置を講じなければならない。

2 介護予防通所型サービス事業者は、前項の事故の状況及び事故に際して採った処置について記録しなければならない。

3 介護予防通所型サービス事業者は、利用者に対する介護予防通所型サービスの提供により賠償すべき事故が発生した場合は、損害賠償を速やかに行わなければならない。

4 介護予防通所型サービス事業者は、第46条第4項の介護予防通所型サービス以外のサービスの提供により事故が発生した場合は、第1項及び第2項の規定に準じた必要な措置を講じなければならない。

(記録の整備)

第55条 介護予防通所型サービス事業者は、従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備しておかななければならない。

2 介護予防通所型サービス事業者は、利用者に対する介護予防通所型サービスの提供に関する次に掲げる記録を整備し、その完結の日から2年間(第1号、第2号、第6号及び第7号に掲げる記録にあっては、5年間)

保存しなければならない。

- (1) 第58条第2号に規定する介護予防通所型サービス計画
- (2) 次条において準用する第20条第2項に規定する提供した具体的なサービスの内容等の記録
- (3) 次条において準用する第24条に規定する市への通知に係る記録
- (4) 次条において準用する第35条第2項に規定する苦情の内容等の記録
- (5) 第54条に規定する事故の状況及び事故に際してとった処置についての記録
- (6) 従業者の勤務の記録
- (7) 前項に規定する会計に関する記録のうち、第1号事業支給費を請求するために、審査支払機関に提出したもの
(準用)

第56条 第9条から第18条まで、第20条、第22条、第24条、第25条、第29条の2、第31条から第33条まで、第35条、第36条、第37条の2及び第38条の規定は、介護予防通所型サービスの事業について準用する。この場合において、第9条第1項及び第31条中「第27条」とあるのは「第49条」と、第9条第1項、第25条及び第31条中「訪問介護員等」とあるのは「介護予防通所型サービス従業者」と読み替えるものとする。

第5節 介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準
(介護予防通所型サービスの基本取扱方針)

第57条 介護予防通所型サービスは、利用者の介護予防に資するよう、その目標を設定し、計画的に行われなければならない。

- 2 介護予防通所型サービス事業者は、自らその提供する介護予防通所型サービスの質の評価を行うとともに、主治の医師又は歯科医師とも連携を図りつつ、常にその改善を図らなければならない。
- 3 介護予防通所型サービス事業者は、介護予防通所型サービスの提供に当たり、単に利用者の運動器の機能の向上、栄養状態の改善、口腔機能の向上等の特定の心身機能に着目した改善等を目的とするものではなく、当該心身機能の改善等を通じて、利用者ができる限り要介護状態とならないで自立した日常生活を営むことができるよう支援することを目的とするものであることを常に意識してサービスの提供に当たらなければならない。
- 4 介護予防通所型サービス事業者は、利用者がその有する能力を最大限

活用することができるような方法によるサービスの提供に努めなければならない。

- 5 介護予防通所型サービス事業者は、介護予防通所型サービスの提供に当たり、利用者とのコミュニケーションを十分に図ることその他の様々な方法により、利用者が主体的に事業に参加するよう適切な働きかけに努めなければならない。

(介護予防通所型サービスの具体的取扱方針)

第58条 介護予防通所型サービスの方針は、第43条に規定する基本方針及び前条に規定する基本取扱方針に基づき、次に掲げるところによるものとする。

- (1) 介護予防通所型サービスの提供に当たっては、主治の医師又は歯科医師からの情報伝達やサービス担当者会議を通じる等の適切な方法により、利用者の心身の状況、その置かれている環境等利用者の日常生活全般の状況の的確な把握を行うこと。
- (2) 介護予防通所型サービス事業所の管理者は、前号に規定する利用者の日常生活全般の状況及び希望を踏まえて、介護予防通所型サービスの目標、当該目標を達成するための具体的なサービスの内容、サービスの提供を行う期間等を記載した計画(以下「介護予防通所型サービス計画」という。)を作成すること。
- (3) 介護予防通所型サービス計画は、既に介護予防サービス計画が作成されている場合は、当該計画の内容に沿って作成しなければならないこと。
- (4) 介護予防通所型サービス事業所の管理者は、介護予防通所型サービス計画の作成に当たっては、その内容について利用者又はその家族に対して説明し、利用者の同意を得なければならないこと。
- (5) 介護予防通所型サービス事業所の管理者は、介護予防通所型サービス計画を作成した際には、当該介護予防通所型サービス計画を利用者に交付しなければならないこと。
- (6) 介護予防通所型サービスの提供に当たっては、介護予防通所型サービス計画に基づき、利用者が日常生活を営むのに必要な支援を行うこと。
- (7) 介護予防通所型サービスの提供に当たっては、懇切丁寧に行うことを旨とし、利用者又はその家族に対し、サービスの提供方法等について、理解しやすいように説明を行うこと。

- (8) 介護予防通所型サービスの提供に当たっては、介護技術の進歩に対応し、適切な介護技術をもってサービスの提供を行うこと。
 - (9) 介護予防通所型サービス事業所の管理者は、介護予防通所型サービス計画に基づくサービスの提供の開始時から、少なくとも1月に1回は、当該介護予防通所型サービス計画に係る利用者の状態、当該利用者に対するサービスの提供状況等について、当該サービスの提供に係る介護予防サービス計画を作成した介護予防支援事業者に報告するとともに、当該介護予防通所型サービス計画に記載したサービスの提供を行う期間が終了するまでに、少なくとも1回は、当該介護予防通所型サービス計画の実施状況の把握（以下この条において「モニタリング」という。）を行うこと。
 - (10) 介護予防通所型サービス事業所の管理者は、モニタリングの結果を記録し、当該記録を当該サービスの提供に係る介護予防サービス計画を作成した介護予防支援事業者に報告しなければならないこと。
 - (11) 介護予防通所型サービス事業所の管理者は、モニタリングの結果を踏まえ、必要に応じて介護予防通所型サービス計画の変更を行うこと。この場合においては、前各号の規定を準用する。
- （介護予防通所型サービスの提供に当たっての留意点）

第59条 介護予防通所型サービスの提供に当たっては、介護予防の効果を最大限高める観点から、次に掲げる事項に留意しながら行わなければならない。

- (1) 介護予防通所型サービス事業者は、サービスの提供に当たり、介護予防支援におけるアセスメントにおいて把握された課題、介護予防通所型サービスの提供による当該課題に係る改善状況等を踏まえつつ、効率的かつ柔軟なサービスの提供に努めること。
- (2) 介護予防通所型サービス事業者は、運動器機能向上サービス、栄養改善サービス又は口腔機能向上サービスを提供するに当たっては、国内外の文献等において有効性が確認されている等の適切なものとする。
- (3) 介護予防通所型サービス事業者は、サービスの提供に当たり、利用者が虚弱な高齢者であることに十分に配慮し、利用者に危険が伴うような強い負荷を伴うサービスの提供は行わないとともに、次条に規定する安全管理体制等の確保を図ること等を通じて、利用者の安全面に最大限配慮すること。

(安全管理体制等の確保)

第60条 介護予防通所型サービス事業者は、サービスの提供を行っているときに利用者に病状の急変等が生じた場合に備え、緊急時マニュアル等を作成し、その事業所内の従業者に周知徹底を図るとともに、速やかに主治の医師への連絡を行えるよう、緊急時の連絡方法をあらかじめ定めておかなければならない。

2 介護予防通所型サービス事業者は、サービスの提供に当たり、転倒等を防止するための環境整備に努めなければならない。

3 介護予防通所型サービス事業者は、サービスの提供に当たり、事前に脈拍や血圧等を測定する等利用者の当日の体調を確認するとともに、無理のない適度なサービスの内容とするよう努めなければならない。

4 介護予防通所型サービス事業者は、サービスの提供を行っているときにおいても、利用者の体調の変化に常に気を配り、病状の急変等が生じた場合その他必要な場合には、速やかに主治の医師への連絡を行う等の必要な措置を講じなければならない。

第6章 生活援助訪問型サービス

第1節 基本方針

(基本方針)

第61条 生活援助訪問型サービスは、その利用者が可能な限りその居宅において、心身の状態の維持若しくは改善を図り、又は要介護状態となることを予防し、自立した日常生活を営むことができるよう、調理や洗濯、掃除等の日常生活の援助を行うことにより、利用者の心身機能の維持回復を図り、もって利用者の生活機能の維持又は向上を目指すものでなければならない。

第2節 人員に関する基準

(訪問介護員等の員数)

第62条 生活援助訪問型サービスを行う者として指定を受けた者(以下「生活援助訪問型サービス事業者」という。)が当該指定に係る生活援助訪問型サービスを行う事業所(以下「生活援助訪問型サービス事業所」という。)ごとに置くべき従事者(生活援助訪問型サービスの提供に当たる介護福祉士、旧法第8条の2第2項に規定する政令で定める者又は習志野市認定ヘルパー等をいう。以下同じ)の員数は、常勤換算方法で、1以上とする。

- 2 生活援助訪問型サービス事業者は、その事業所ごとに、常勤の従事者のうち、利用者（当該生活援助訪問型サービス事業者が指定訪問介護事業者の指定を併せて受け、かつ、生活援助訪問型サービスの事業と、指定訪問介護又は介護予防訪問型サービスの事業が同一の事業所において一体的に運営されている場合にあつては、当該事業所における生活援助訪問型サービス、介護予防訪問型サービス及び指定訪問介護の利用者。以下この条において同じ。）の数が40又はその端数を増すごとに1人以上の者をサービス提供責任者としなければならない。この場合において、当該サービス提供責任者の員数については、利用者の数に応じて常勤換算方法によることができる。
- 3 前項の利用者の数は、前3月の平均値とする。ただし、新規に指定を受ける場合は、推定数による。
- 4 第2項のサービス提供責任者は、介護福祉士その他厚生労働大臣が定めるサービス提供責任者（平成24年厚生労働省告示第118号）に定める者であつて、専ら生活援助訪問型サービスに従事するものをもって充てなければならない。ただし、利用者に対する生活援助訪問型サービスの提供に支障がない場合は、同一敷地内にある指定定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所又は指定夜間対応型訪問介護事業所に従事することができる。
- 5 第2項の規定にかかわらず、常勤のサービス提供責任者を3人以上配置し、かつ、サービス提供責任者の業務に主として従事する者を1人以上配置している生活援助訪問型サービス事業所において、サービス提供責任者が行う業務が効率的に行われている場合にあつては、当該生活援助訪問型サービス事業所に置くべきサービス提供責任者の員数は、利用者の数が50又はその端数を増すごとに1人以上とすることができる。
- 6 生活援助訪問型サービス事業者が指定訪問介護事業者又は介護予防訪問型サービス事業者の指定を併せて受け、かつ、生活援助訪問型サービスの事業と指定訪問介護又は介護予防訪問型サービスの事業が同一の事業所において一体的に運営されている場合については、第6条第1項から第5項まで又は指定居宅サービス等基準第5条第1項から第4項までに規定する人員に関する基準を満たすことをもって、前各項に規定する基準を満たしているものとみなすことができる。

（管理者）

第63条 生活援助訪問型サービス事業者は、生活援助訪問型サービス事

業所ごとに専らその職務に従事する常勤の管理者を置かなければならない。ただし、生活援助訪問型サービス事業所の管理上支障がない場合は、当該生活援助訪問型サービス事業所の他の職務に従事し、又は同一敷地内にある他の事業所、施設等の職務に従事することができるものとする。

第3節 設備に関する基準

(設備及び備品等)

第64条 生活援助訪問型サービス事業所には、事業の運営を行うために必要な広さを有する専用の区画を設けるほか、生活援助訪問型サービスの提供に必要な設備及び備品等を備えなければならない。

2 生活援助訪問型サービス事業者が指定訪問介護事業者又は介護予防訪問型サービスの指定を併せて受け、かつ、生活援助訪問型サービスの事業と指定訪問介護又は介護予防訪問型サービスの事業が同一の事業所において一体的に運営されている場合については、第8条第1項又は指定居宅サービス等基準第7条第1項に規定する設備に関する基準を満たすことをもって、前項に規定する基準を満たしているものとみなすことができる。

第4節 運営に関する基準

(生活援助の総合的な提供)

第65条 生活援助訪問型サービス事業者は、生活援助訪問型サービスの事業の運営に当たっては、調理、洗濯、掃除等の日常生活の援助(以下この条において「生活援助」という。)を常に総合的に提供するものとし、生活援助のうち特定の支援に偏ることがあってはならない。

(記録の整備)

第66条 生活援助訪問型サービス事業者は、従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備しておかなければならない。

2 生活援助訪問型サービス事業者は、利用者に対する生活援助訪問型サービスの提供に関する次の各号に掲げる記録を整備し、その完結の日から2年間(第1号、第2号、第6号及び第7号に掲げる記録にあつては、5年間)保存しなければならない。

(1) 次条において準用する第41条第2号に規定する生活援助訪問型サービス計画

(2) 次条において準用する第20条第2項に規定する提供した具体的なサービスの内容等の記録

- (3) 次条において準用する第24条に規定する市への通知に係る記録
- (4) 次条において準用する第35条第2項に規定する苦情の内容等の記録
- (5) 次条において準用する第37条第2項に規定する事故の状況及び事故に際して採った処置についての記録
- (6) 前項に規定する従業者に関する記録のうち、従業者の勤務体制についての記録
- (7) 前項に規定する会計に関する記録のうち、第1号事業支給費を請求するために、審査支払機関に提出したもの
(準用)

第67条 第4章第4節(第28条及び第39条を除く)及び第5節の規定は、生活援助訪問型サービスの事業について準用する。この場合において、第9条第1項、第19条、第23条、第25条、第26条第3項第4号から第7号まで、第29条第1項から第3項まで、第30条第1項、第31条及び第41条中「訪問介護員等」とあるのは「従事者」と、第26条第3項中「第6条第2項」とあるのは「第62条第2項」と、第41条第2号から第6号まで、第9号及び第11号中「介護予防訪問型サービス計画」とあるのは「生活援助訪問型サービス計画」と読み替えるものとする。

第7章 運動機能向上ミニデイ型サービス

第1節 基本方針

第68条 運動機能向上ミニデイ型サービスは、その利用者が可能な限りその居宅において、自立した日常生活を営むことができるよう、必要な機能訓練を行うことにより、利用者の心身機能の維持回復を図り、もって利用者の生活機能の維持又は向上を目指すものでなければならない。

第2節 人員に関する基準

(従業者の員数)

第69条 運動機能向上ミニデイ型サービスを行う者として指定を受けた者(以下「運動機能向上ミニデイ型サービス事業者」という。)が当該指定に係る運動機能向上ミニデイ型サービスを行う事業所(以下「運動機能向上ミニデイ型サービス事業所」という。)ごとに置くべき従業者(以下この章において「運動機能向上ミニデイ型サービス従業者」という。)の員数は、次のとおりとする。

- (1) 介護職員 運動機能向上ミニデイ型サービスの単位ごとに、当該運

動機能向上ミニデイ型サービスを提供している時間帯に介護職員（専ら当該運動機能向上ミニデイ型サービスの提供に当たる者に限る。）が勤務している時間数の合計数を、当該運動機能向上ミニデイ型サービスを提供している時間数（次項において「提供単位時間数」という。）で除して得た数が利用者（当該運動機能向上ミニデイ型サービス事業者が指定通所介護事業者等、介護予防通所型サービス事業者又は介護予防ミニデイ型サービス事業者の指定を併せて受け、かつ、運動機能向上ミニデイ型サービスの事業と、指定通所介護等、介護予防通所型サービス又は介護予防ミニデイ型サービスの事業が同一の事業所において一体的に運営されている場合にあつては、当該事業所における運動機能向上ミニデイ型サービス、介護予防通所型サービス、介護予防ミニデイ型サービス及び指定通所介護等の利用者。以下この条において同じ。）の数が15人までの場合にあつては1以上、利用者の数が15人を超える場合にあつては15人を超える部分の数を5で除して得た数に1を加えた数以上確保されるために必要と認められる数

(2) 機能訓練指導員 単位ごとに1以上

- 2 運動機能向上ミニデイ型サービス事業者は、運動機能向上ミニデイ型サービスの単位ごとに、前項各号の従業者を、常時2人以上当該運動機能向上ミニデイ型サービスに従事させなければならない。
- 3 第1項の規定にかかわらず、介護職員は、利用者の処遇に支障がない場合は、他の運動機能向上ミニデイ型サービスの単位の介護職員として従事することができる。
- 4 前各項の運動機能向上ミニデイ型サービスの単位は、運動機能向上ミニデイ型サービスであつて、その提供が同時に1又は複数の利用者に対して一体的に行われるものをいう。
- 5 第1項第2号の機能訓練指導員は、日常生活を営むのに必要な機能の減退を防止するための訓練を行う能力を有する者とし、当該運動機能向上ミニデイ型サービス事業所の他の職務に従事することができる。
- 6 運動機能向上ミニデイ型サービス事業者が指定通所介護事業者等又は介護予防通所型サービス事業者の指定を併せて受け、かつ、運動機能向上ミニデイ型サービスの事業と指定通所介護等又は介護予防通所型サービスの事業が同一の事業所において一体的に運営されている場合については、第44条第1項から第8項まで、指定居宅サービス等基準第93条第1項から第7項まで又は指定地域密着型サービス基準第20

条第1項から第8項までに規定する人員に関する基準を満たすことをもって、前各項に規定する基準を満たしているものとみなすことができる。

(管理者)

第70条 運動機能向上ミニデイ型サービス事業者は、運動機能向上ミニデイ型サービス事業所ごとに専らその職務に従事する常勤の管理者を置かなければならない。ただし、運動機能向上ミニデイ型サービス事業所の管理上支障がない場合は、当該運動機能向上ミニデイ型サービス事業所の他の職務に従事し、又は同一敷地内にある他の事業所、施設等の職務に従事することができる。

第3節 設備に関する基準

(設備及び備品等)

第71条 運動機能向上ミニデイ型サービス事業所は、サービスを提供するのに必要な場所及び利用者が静養するのに必要な場所を有するほか、消火設備その他の非常災害に際して必要な設備並びに運動機能向上ミニデイ型サービスの提供に必要なその他の設備及び備品等を備えなければならない。

- 2 前項に掲げるサービスを提供するのに必要な場所の面積は、3平方メートルに利用定員を乗じて得た面積以上とすること。
- 3 第1項に掲げる設備は、専ら当該運動機能向上ミニデイ型サービスの事業の用に供するものでなければならない。ただし、利用者に対する運動機能向上ミニデイ型サービスの提供に支障がない場合は、この限りでない。
- 4 前項ただし書の場合(運動機能向上ミニデイ型サービス事業者が第1項に掲げる設備を利用し、夜間及び深夜に運動機能向上ミニデイ型サービス以外のサービスを提供する場合に限る。)には、当該サービスの内容を当該サービスの提供の開始前に当該運動機能向上ミニデイ型サービスの事業者に係る指定を行った市長に届け出るものとする。
- 5 運動機能向上ミニデイ型サービス事業者が指定通所介護事業者等又は介護予防通所型サービス事業者の指定を併せて受け、かつ、運動機能向上ミニデイ型サービスの事業と指定通所介護等又は介護予防通所型サービスの事業が同一の事業所において一体的に運営されている場合については、第46条第1項から第3項まで、指定居宅サービス等基準第95条第1項から第3項まで又は指定密着型サービス基準第22条第1項から第3項までに規定する設備に関する基準を満たすことをもって、前各項に規定する基準を満たしているものとみなすことができる。

第4節 運営に関する基準

(記録の整備)

第72条 運動機能向上ミニデイ型サービス事業者は、従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備しておかなければならない。

2 運動機能向上ミニデイ型サービス事業者は、利用者に対する運動機能向上ミニデイ型サービスの提供に関する次に掲げる記録を整備し、その完結の日から2年間(第1号、第2号、第6号及び第7号に掲げる記録にあっては、5年間)保存しなければならない。

(1) 次条において準用する第58条第2号に規定する運動機能向上ミニデイ型サービス計画

(2) 次条において準用する第20条第2項に規定する提供した具体的なサービスの内容等の記録

(3) 次条において準用する第24条に規定する市への通知に係る記録

(4) 次条において準用する第35条第2項に規定する苦情の内容等の記録

(5) 次条において準用する第54条に規定する事故の状況及び事故に際してとった処置についての記録

(6) 従業者の勤務の記録

(7) 前項に規定する会計に関する記録のうち、第1号事業支給費を請求するために、審査支払機関に提出したもの

(準用)

第73条 第9条から第18条まで、第20条、第22条、第24条、第25条、第31条から第36条まで及び第38条並びに第5章第4節(第55条及び第56条を除く)及び第5節の規定は、運動機能向上ミニデイ型サービスの事業について準用する。この場合において、第9条第1項及び第31条中「第27条」とあるのは「第49条」と、第9条第1項、第25条及び第31条中「訪問介護員等」とあるのは「運動機能向上ミニデイ型サービス従業者」と、第54条第4項中「第46条第4項」とあるのは「第71条第4項」と、第57条第3項中「運動器の機能の向上、栄養状態の改善、口腔機能の向上等の特定の心身機能」とあるのは「運動器の機能向上等の特定の心身機能」と、第58条中「第43条」とあるのは「第67条」と、第59条第2号「運動器機能向上サービス、栄養改善サービス又は口腔機能向上サービス」とあるのは「運動器機能向上サービス」と読み替えるものとする。

第8章 介護予防ミニデイ型サービス

第1節 基本方針

第74条 介護予防ミニデイ型サービスは、その利用者が可能な限りその居宅において、自立した日常生活を営むことができるよう、必要なレクリエーション及び体操を行うことにより、利用者の心身機能の維持回復を図り、もって利用者の生活機能の維持又は向上を目指すものでなければならない。

第2節 人員に関する基準

(従業者の員数)

第75条 介護予防ミニデイ型サービスを行う者として指定を受けた者(以下「介護予防ミニデイ型サービス事業者」という。)が当該指定に係る運動機能向上ミニデイ型サービスを行う事業所(以下「介護予防ミニデイ型サービス事業所」という。)ごとに置くべき従業者(以下この章において「介護予防ミニデイ型サービス従業者」という。)の員数は、次のとおりとする。

- (1) 介護職員 介護予防ミニデイ型サービスの単位ごとに、当該介護予防ミニデイ型サービスを提供している時間帯に介護職員(専ら当該介護予防ミニデイ型サービスの提供に当たる者に限る。)が勤務している時間数の合計数を、当該介護予防ミニデイ型サービスを提供している時間数(次項において「提供単位時間数」という。)で除して得た数が利用者(当該介護予防ミニデイ型サービス事業者が指定通所介護事業者等、介護予防通所型サービス事業者又は運動機能向上ミニデイ型サービス事業者の指定を併せて受け、かつ、介護予防ミニデイ型サービスの事業と、指定通所介護等、介護予防通所型サービス又は運動機能向上ミニデイ型サービスの事業が同一の事業所において一体的に運営されている場合にあっては、当該事業所における介護予防ミニデイ型サービス、介護予防通所型サービス、運動機能向上ミニデイ型サービス及び指定通所介護等の利用者。以下この条において同じ。)の数が15人までの場合にあっては1以上、利用者の数が15人を超える場合にあっては15人を超える部分の数を5で除して得た数に1を加えた数以上確保されるために必要と認められる数
- 2 介護予防ミニデイ型サービス事業者は、介護予防ミニデイ型サービスの単位ごとに、前項の従業者を、常時2人以上当該介護予防ミニデイ型サービスに従事させなければならない。
- 3 第1項の規定にかかわらず、介護職員は、利用者の処遇に支障がない

場合は、他の介護予防ミニデイ型サービスの単位の介護職員として従事することができる。

- 4 前各項の介護予防ミニデイ型サービスの単位は、介護予防ミニデイ型サービスであって、その提供が同時に1又は複数の利用者に対して一体的に行われるものをいう。
- 5 介護予防ミニデイ型サービス事業者が指定通所介護事業者等又は介護予防通所型サービス事業者の指定を併せて受け、かつ、介護予防ミニデイ型サービスの事業と指定通所介護等又は介護予防通所型サービスの事業が同一の事業所において一体的に運営されている場合については、第44条第1項から第8項まで、指定居宅サービス等基準第93条第1項から第7項まで又は指定地域密着型サービス基準第20条第1項から第8項までに規定する人員に関する基準を満たすことをもって、前各項に規定する基準を満たしているものとみなすことができる。

(管理者)

第76条 介護予防ミニデイ型サービス事業者は、介護予防ミニデイ型サービス事業所ごとに専らその職務に従事する常勤の管理者を置かなければならない。ただし、介護予防ミニデイ型サービス事業所の管理上支障がない場合は、当該介護予防ミニデイ型サービス事業所の他の職務に従事し、又は同一敷地内にある他の事業所、施設等の職務に従事することができる。

第3節 設備に関する基準

(設備及び備品等)

第77条 介護予防ミニデイ型サービス事業所は、サービスを提供するのに必要な場所を有するほか、消火設備その他の非常災害に際して必要な設備並びに介護予防ミニデイ型サービスの提供に必要なその他の設備及び備品等を備えなければならない。

- 2 前項に掲げるサービスを提供するのに必要な場所の面積は、3平方メートルに利用定員を乗じて得た面積以上とすること。
- 3 第1項に掲げる設備は、専ら当該介護予防ミニデイ型サービスの事業の用に供するものでなければならない。ただし、利用者に対する介護予防ミニデイ型サービスの提供に支障がない場合は、この限りでない。
- 4 前項ただし書の場合(介護予防ミニデイ型サービス事業者が第1項に掲げる設備を利用し、夜間及び深夜に介護予防ミニデイ型サービス以外のサービスを提供する場合に限る。)には、当該サービスの内容を当該サー

ビスの提供の開始前に当該介護予防ミニデイ型サービスの事業者に係る指定を行った市長に届け出るものとする。

- 5 介護予防ミニデイ型サービス事業者が指定通所介護事業者等又は介護予防通所型サービス事業者の指定を併せて受け、かつ、介護予防ミニデイ型サービスの事業と指定通所介護等又は介護予防通所型サービスの事業が同一の事業所において一体的に運営されている場合については、第46条第1項から第3項まで、指定居宅サービス等基準第95条第1項から第3項まで又は指定密着型サービス基準第22条第1項から第3項までに規定する設備に関する基準を満たすことをもって、前各項に規定する基準を満たしているものとみなすことができる。

第4節 運営に関する基準

(記録の整備)

第78条 介護予防ミニデイ型サービス事業者は、従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備しておかなければならない。

- 2 介護予防ミニデイ型サービス事業者は、利用者に対する介護予防ミニデイ型サービスの提供に関する次に掲げる記録を整備し、その完結の日から2年間(第1号、第2号、第6号及び第7号に掲げる記録にあつては、5年間)保存しなければならない。

(1) 次条において準用する第58条第2号に規定する介護予防ミニデイ型サービス計画

(2) 次条において準用する第20条第2項に規定する提供した具体的なサービスの内容等の記録

(3) 次条において準用する第24条に規定する市への通知に係る記録

(4) 次条において準用する第35条第2項に規定する苦情の内容等の記録

(5) 次条において準用する第54条に規定する事故の状況及び事故に際してとった処置についての記録

(6) 従業者の勤務の記録

(7) 前項に規定する会計に関する記録のうち、第1号事業支給費を請求するために、審査支払機関に提出したもの

(準用)

第79条 第9条から第18条まで、第20条、第22条、第24条、第25条、第31条から第36条まで及び第38条並びに第5章第4節(第55条及び第56条を除く)及び第5節(第58条及び第59条を除く)の規定は、介護

予防ミニデイ型サービスの事業について準用する。この場合において、第9条第1項及び第31条中「第27条」とあるのは「第49条」と、第9条第1項、第25条及び第31条中「訪問介護員等」とあるのは「介護予防ミニデイ型サービス従業者」と、第54条第4項中「第46条第4項」とあるのは「第77条第4項」と、第57条第3項中「運動器の機能の向上、栄養状態の改善、口腔機能の向上等の特定の心身機能」とあるのは「特定の心身機能」と読み替えるものとする。

第5節 介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準

(介護予防ミニデイ型サービスの具体的取扱方針)

第80条 介護予防ミニデイ型サービスの方針は、第74条に規定する基本方針及び前条において準用した第57条に規定する基本取扱方針に基づき、次に掲げるところによるものとする。

- (1) 介護予防ミニデイ型サービスの提供に当たっては、主治の医師又は歯科医師からの情報伝達やサービス担当者会議を通じる等の適切な方法により、利用者の心身の状況、その置かれている環境等利用者の日常生活全般の状況の的確な把握を行うこと。
- (2) 介護予防ミニデイ型サービスの提供に当たっては、懇切丁寧に行うことを旨とし、利用者又はその家族に対し、サービスの提供方法等について、理解しやすいように説明を行うこと。
- (3) 介護予防ミニデイ型サービスの提供に当たっては、介護技術の進歩に対応し、適切な介護技術をもってサービスの提供を行うこと。
- (4) 介護予防ミニデイ型サービス事業所の管理者は、サービスの提供の開始時から、少なくとも1月に1回は、利用者の状態、当該利用者に対するサービスの提供状況等について、当該サービスの提供に係る介護予防サービス計画を作成した介護予防支援事業者に報告すること。

(介護予防ミニデイ型サービスの提供に当たっての留意点)

第81条 介護予防ミニデイ型サービスの提供に当たっては、介護予防の効果を最大限高める観点から、次に掲げる事項に留意しながら行わなければならない。

- (1) 介護予防ミニデイ型サービス事業者は、サービスの提供に当たり、介護予防支援におけるアセスメントにおいて把握された課題、介護予防ミニデイ型サービスの提供による当該課題に係る改善状況等を踏まえつつ、効率的かつ柔軟なサービスの提供に努めること。

- (2) 介護予防ミニデイ型サービス事業者は、サービスの提供に当たり、利用者が虚弱な高齢者であることに十分に配慮し、利用者に危険が伴うような強い負荷を伴うサービスの提供は行わないとともに、次条に規定する安全管理体制等の確保を図ること等を通じて、利用者の安全面に最大限配慮すること。

第9章 雑則

(電磁的記録等)

第82条 第1号訪問事業者及び第1号通所型サービス事業者は、作成、保存、その他これらに類するもののうち、書面(書面、書類、文書、謄本、抄本、正本、副本、複本その他文字、図形等人の知覚によって認識することができる情報が記載された紙その他の有体物をいう。以下この上において同じ。)で行うことが想定されるものについては、書面に代えて、当該書面に係る電磁的記録(電子的方式、磁気的方式、その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られる記録であって、電子計算機による情報処理の用に供されるものをいう。)により行うことができる。

- 2 第1号訪問事業者及び第1号通所事業者は、交付、説明、同意、承諾、締結その他これらに類するもの(この項において「交付等」という。)のうち、書面で行うことが想定されるものについては、当該交付等の相手方の承諾を得て、書面に代えて、電磁的方法、磁気的方法その他人の知覚によって認識することができない方法をいう。)によることができる。

(委任)

第83条 この要綱に定めるもののほか、介護予防訪問型サービス、介護予防通所型サービスの事業、生活援助訪問型サービス、運動機能向上ミニデイ型サービス及び介護予防ミニデイ型サービスの人員、設備及び運営に関する基準について必要な事項は、市長が別に定める。

附則

この要綱は、平成29年4月1日から施行する。

附則

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

附則

この要綱は、平成30年7月1日から施行する。

附則

- 1 この要綱の適用の日から令和6年3月31日までの間、第27条第1項第7号、第29条の2、第30条第3項、第37条の2、第49条第1項第10号及び第50条第3項の規定の適用については、これらの規定中「講

- じなければ」とあるのは、「講じるよう努めなければ」とする。
- 2 この要綱は、令和3年4月1日から施行する。